

第2回 沖縄交通リ・デザインシンポジウム

沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業について

令和8年2月17日
沖縄企画部交通政策課

1. 事業の概要

- 国が進める沖縄リ・デザインの取組と連携し、R6年度とR7年度に本島全域で高校生、大学生、就業者、高齢者、妊産婦、身体障がい者、観光客に対するワークショップ、ヒアリング・アンケートを実施し、多くのパーソナの主な声を踏まえた課題を整理し、これを反映した『県民等が望む移動・交通の姿』を取りまとめる。
- 以上を踏まえ、R8年度は具体的な実証実験等に繋げ、沖縄県地域公共交通計画の実現に寄与する公共交通施策の推進を目指す。

R6年度事業の実施概要（延べ約16,120名）

大学生等へのワークショップ

これからの沖縄社会を担う学生世代を対象に、各圏域での日常生活や様々なパーソナも意識した中で、ありたい姿や移動・交通の姿を探るためのワークショップを実施

ワークショップ（延べ人数）

【北部圏】 名桜大学約30名
沖縄高専約80名

【中部圏】 琉球大学約110名

【南部圏】 沖縄大学 約110名

合計 約330名

※各校2回WSを実施、傍聴学生含む

高校生等へのアンケート・ワークショップ

全県立高校の生徒・保護者等を対象に、日常生活での通学時に着目し、通学に必要な交通や送迎に関するアンケートを実施

アンケート対象と回答者数

※本島内県立高校51校(在校生約3.6万人)を対象

・高校生 約13,300名（約37%）
・保護者等 約2,200名

+

送迎交通による渋滞への影響が顕著な中部圏、南部圏の高校を対象に、あるべき姿とアクションを探るためのワークショップを実施

ワークショップ（人数）

【中部圏】 普天間高校 約30名
【南部圏】 浦添高校 約30名

移動困難者等へのヒアリング・アンケート

様々な移動困難者（若年妊産婦、一般妊産婦、障がい者、高齢者）からみた沖縄のありたい姿や移動・交通の姿を探ることを目的に、ヒアリング・アンケートを実施

回答者数

○ヒアリング等

【北部圏】 高齢者 約20名

【中部圏】 若年妊産婦 約10名

【南部圏】 身体障がい者 約30名

※各団体イベント、施設来訪者に協力依頼

○アンケート

【中部圏】 一般妊産婦 約170名

※出生届時、母子手帳交付時、個別支援員家庭訪問時、定期健診時（10月～12月）に協力依頼

R7年度事業の実施概要（延べ約1,300名）

就業者へのワークショップ・アンケート

沖縄企業等に勤務している通勤者が、日々の通勤や日常生活を送られている中で、**移動・交通等に関して“困っていること”や“どんな移動や交通があると助かるか”、“誰がどんなアクションをすべきか”**に関する声を伺い、今後の公共交通政策に反映していくことを目的に**ワークショップ及びアンケートを実施**

ワークショップ（延べ人数）

【民間企業就業者】	沖縄セルラー電話	約40名
	沖縄海邦銀行	約20名
【自治体就業者】	宜野湾市役所	約20名
	浦添市役所	約10名

合計 約90名

※民間企業は各2回、自治体は各1回WSを実施



アンケート（回答者数）

【民間企業就業者】		
琉球銀行	約110名	
沖縄銀行	約650名	

合計 約760名

※各社内でWEBアンケートを実施

高齢者へのヒアリング

中南部圏の都市部に居住するの高齢者を対象に、日常生活での移動・交通等に関して困っていることや、改善要望などに着目し**ヒアリング**を実施

ヒアリング（回答者数）

那覇地区老人クラブスポーツ大会参加の高齢者 約20名

観光客へのアンケート

沖縄本島に訪れた国内観光客を対象に、沖縄本島内を観光された時に、移動・交通で困ったことや、改善要望などに着目し**アンケート**（WEBモニター）を実施

アンケート（回答者数）

R7.6～11月に本島を訪れた国内観光客 約520名

R6年度・R7年度で得られた県民等の声 延べ全体で約17,420名

1. 事業の概要

【ワークショップ等の実施状況】

大学生等へのワークショップ

名桜大学



沖縄高専



琉球大学



沖縄大学



高校生へのワークショップ

浦添高校



普天間高校



就業者へのワークショップ

沖縄セルラー電話



沖縄海邦銀行



宜野湾市役所



浦添市役所



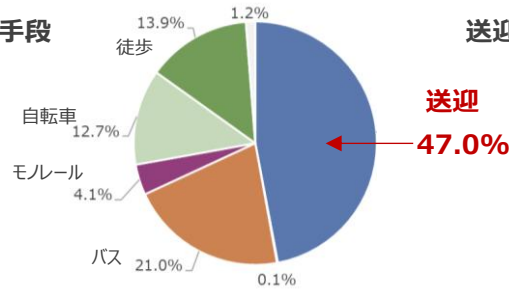
2. 県民等の移動・交通に関する主な声

児童・生徒・学生 保護者

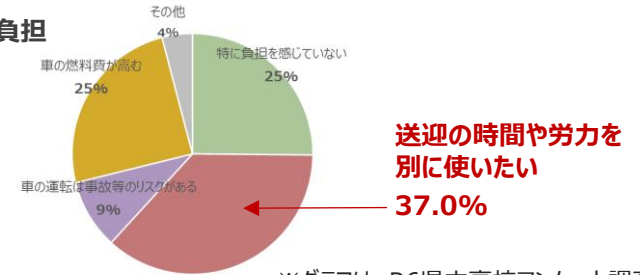


- ① 沖縄は幼少期から送迎習慣が深く根付き、県立高校生では通学のための送迎が約5割弱を占める。
- ② 小中学校周辺の道路も混雑する他、親子ともに送迎時間に縛られ、行動に制約や負担を感じている。
- ③ バスは、本数も限られ、車内混雑、渋滞で頻繁に遅延、運賃も負担等、選択しにくい。
- ④ 交通の便や通学コストは学校選択に影響する。通学支援制度は公平にして欲しい。
- ⑤ 送迎に要する時間や労力を別に使いたい。
- ⑥ こどもの健康や自立のためバスを利用して社会に出るための練習をした方が良い。
- ⑦ 道路は凸凹で雑草も多い、街路灯も少なく下校時は暗く怖いし危険、だから送迎する。

県立高校生の通学手段



送迎による家族の負担



※グラフは、R6県立高校アンケート調査より

就業者・ 子育て世代



- ① マイカー通勤は渋滞で疲れる、通勤時間が苦痛。こどもの迎えや買物等、生活への影響もある。
- ② こどもの送迎は、朝がバタバタ、遠回り、仕事に間に合わない、疲れて仕事の集中力が欠ける。
- ③ モルレールは、観光客も多く、混雑して乗れない時がある。
- ④ バス通勤しない理由には、何時到着するかわからない、バス乗換えで時間がかかる、帰宅が遅くバスが運行していない、混雑で乗車できない時がある、運賃が高い、こどもの送迎がある、等がある。
- ⑤ 子育て中は、保育料も負担、お迎えで近くの仕事しか選べない、生活にゆとりがない、不安やストレスが多い。
- ⑥ 子連だと他人への迷惑や荷物もありバスは利用しにくい、歩道も狭くベビーカーや子連れ散歩は不安。

通勤混雑も疲れるし、仕事にも影響する



燃料費や駐車料金のコストが負担
P満車

こども連れて歩くのも不安...



2. 県民等の移動・交通に関する主な声

高齢者・ 移動困難者



- ① **高齢者**は、足も弱り自由に移動できなくなる、**徐々に車の運転への安全性が低下する恐れを心配**。
- ② **年金暮らし**で経済的ゆとりもなく、**公共交通は運賃が高いので外出も少なくなる**。
- ③ 近場の移動は自分で運転するが、**移動距離があると誰かの助けが必要**。
- ④ **バスはそもそも乗ったことがない**、バスに乗るにも、**どのバスに乗ればいいのかさえ、全く見当がつかない**。
- ⑤ **妊産婦**は、お腹が大きくなると**車の運転が不安**。買物も一人では重いものが買えない。**経済的にゆとりがなくても、車を手放せない**。
- ⑥ **障がい者**保険支援サービスの場合、月の支援時間制約があり、**時間がかかる公共交通は使えない**。

車がないと生活に困る
今後でもできる限り運転していき
かない・・・



ひとり親で生活のやりくりも大変・・・

観光客



- ① 空港に着いた後、レンタカー利用するまでで道路の**渋滞が酷く、待ち時間も長い**。
- ② レンタカーで島内を**移動するにも、渋滞が多く予定通り観光できない**。
- ③ **モノレールは、足を伸ばす観光に利用できない。外国人も多く混雑している**ので**ストレスを感じる**。
- ④ **バスは、路線が複雑**すぎて、**待ち時間も長く、時刻表もわかりづらい**、やっと乗れても**満員でうんざりした**。
- ⑤ 沖縄の資源も活かし、**歩いて観光できたり、移動しながら沖縄の景色に触れ合える工夫が欲しい**。
- ⑥ 観光客向けに、**公共交通の情報**や、各地での**案内表示**、**日差しを凌げる休憩スポット**等を充実して欲しい。



レンタカーで移動するにも渋滞で予定通り観光できない。。



観光客にはバス路線がわかりにくい、時間もかかる・・・



もっと歩いて観光できれば。。
日差しを凌げる休憩スポットも。。

社会全体



- ① **渋滞や混雑は、人口や事業所の集中も影響しているのではないかと、バス利用者を増やすキャンペーンや車の利用を抑制することも重要**。
- ② **OKICA**は**アプリ化やコンビニチャージ、クレジットカードでの定期券購入、遅延証明アプリ化、運賃支払い方法**をsuica、PayPay、クレジットカードなど**多様化**して欲しい。
- ③ **モノレールとバスの結節見直し、沖縄らしさを取り入れた駅のアート化や、景観が楽しめるよう路線整備**してはどうか。また、**駅の魅力が少ないため、駅に人が集まるまちづくりも重要**と感じる。



色々な方法で運賃支払いができれば。。

3. 持続可能な沖縄社会構築に向けた移動・交通に関する課題

県民等全体に共通する課題

様々な県民等の声から想定される共通した課題は、①移動コスト（移動コストの低減又は必要な支援の拡充）、②移動時間（移動の確実性の確保及び渋滞による時間損失・負担の低減）、③安心と安全性（安心と安全性が確保された移動環境の整備）の3点が重要な課題と考えられる。

①移動コスト

（移動コストの低減又は必要な支援の拡充）

移動するためのコストに関しては、限られた所得の中で車に大きく依存せざるを得ない社会となっているため、燃料費や維持費の負担が、県民の日常生活に影響を与えている。

さらに、公共交通と自動車の間での移動支払い額の開きがあることや、公共交通コストの実費負担額が大きいことも、車に依存せざるを得ない社会を形成している大きな要因であり、沖縄の社会全体で取り組むべき大きな課題と考えられる。



②移動時間

（移動の確実性の確保及び渋滞による時間損失・負担の低減）

移動における時間損失に関しては、まさに全国ワーストの道路の渋滞であり、これによるバスの走行性、運行の確実性が確保できていない大きな要因の一つとなっている。

無駄のない確実な移動時間の確保は、沖縄の労働生産性向上、豊かな日常生活の創出、観光の活性化等を図るためにも重要であるほか、高校生、就業者を始めとした多くの世代や観光客に対する、公共交通の信頼性を高めることにも繋がるため、沖縄で取り組むべき必須課題と考えられる。



③安心と安全性

（安心と安全性が確保された移動環境の整備）

安心と安全性に関しては、県民等の運転マナーの改善、移動困難者に対応したバリアフリー化の拡充、こどもから高齢者、観光客まで安心して移動できる移動環境を整えることが課題である。

これにより、こどもたちの送迎通学低減と親世代の負担軽減、高齢化社会での交通安全の確保、沖縄観光の魅力向上等、幅広い分野での効果が期待できるため、治安・教育・福祉・まちづくり等の分野と連携しながら取り組みを進めていくことが、沖縄の基本的な課題と考えられる。



3. 持続可能な沖縄社会構築に向けた移動・交通に関する課題

パーソナの視点からみた移動・交通に関する課題

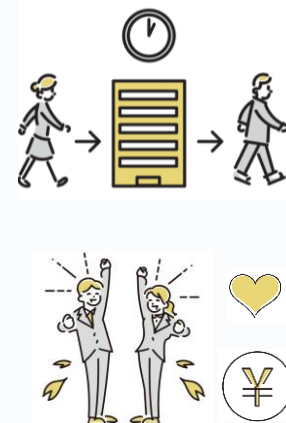
児童・生徒・学生

- ① 未就学児の通園等の環境把握及び小中学校への行動変容の全地域での継続的な取組
- ② 学校周辺における道路状況の確認と必要な対策の推進
- ③ 複雑で多方面にまたがった確認や取組等（移動コストや送迎の負担、進路選択、通学支援制度、安全・安心等）
- ④ 送迎に依存しない通学のための交通環境の構築



就業者・子育て世代

- ① 就業者の柔軟な勤務体制の拡大に向けた取組
- ② 就業者の通勤コスト低減に向けた取組
- ③ 通勤時の移動時間に関する確実性向上
- ④ 子育て世代の移動に対する負担と不安の軽減
- ⑤ 生活や移動効率性からみた職住近接、日常生活機能の集約等、暮らしやすいまちづくりも課題



高齢者・移動困難者

- ① 車に依存せず、元気な日常を過ごすための移動手段等の確保、安全・安心な道路交通環境確保
- ② 妊産婦や困窮者の暮らしを支えるまちづくり（移動コスト、目的地集約）
- ③ 移動しやすいバリアフリー化
- ④ 日常から県民全員が健康増進を



観光客

- ① レンタカーの利用、移動をスムーズに
- ② バスやモルールで観光を移動しやすく（分かりやすい路線、運賃支払い方法多様化等）
- ③ 観光客が乗りたくなる公共交通、情報案内、日よけ施設、休憩施設の整備・充実
- ④ 歩いて文化や景色等と触れ合える環境整備を通した沖縄観光の活性化



社会全体

- ① 全員が沖縄や持続性を考える
- ② 事業者は交通サービスの効率化や共創の工夫を
- ③ 企業は移動・交通面で社会的貢献と価値を高める
- ④ 交通・移動を支援する側は関係者と連携しながら必要な対策・支援を

4. 行動変容に向け取組が期待されるテーマ

課題として示した①移動コスト、②移動時間、③安心と安全性の3点は、重要な課題であるが、これら課題を解決していくためには、中長期的な取組が必要となる場合がある。

一方で、ワークショップに参加いただいた方々からは、今後は『時差出勤と併せて公共交通を利用する』、『歩いたり自転車で通勤するよう心掛ける』、『週1回はなるべくバスを利用する』、『こどもの送迎をやめてみる』、『こどもをバスに乗せてみる』、『ウォーキングの習慣をつける』、『買物はまとめて行い車の移動回数を控える』等、自分の行動を変容していく意識が高まったこともうかがえた。

このようなワークショップ等による県民等への働きかけは、県民等自らが行動変容を考える気づき、発見を得る機会となっており、沖縄が抱える課題を踏まえると、特にピーク時に集中している『マイカー通勤の行動変容』、『送迎通学の行動変容』、『行動変容を支える社会づくり』といったテーマを掲げ、各関係者を中心とした社会全体で継続的に取組を進めていくことが重要と考えられる。

テーマ1



『マイカー通勤の行動変容』

- ✓ 『マイカー通勤』に関しては、通勤手当の支給状況や企業が持つ従業員駐車場等、様々な課題
- ✓ 沖縄の経済界が協力して取組み、企業の生産性向上に結びつけ、SDGsやカーボンニュートラルといった社会貢献に繋がることを期待
- ✓ 沖縄の経済界構成企業への周知や協力依頼、必要に応じたワークショップの開催等の取組を促し、行動変容の協力企業の輪を広げていくことが重要

テーマ2



『送迎通学の行動変容』

- ✓ 『送迎通学』に関しては、通学運賃の支出、通勤序の送迎、バスの利便性、安全な通学環境など、様々な課題
- ✓ 送迎通学が習慣化されている部分もあるため、バス通学を体験し、ご家族を含め送迎通学を考えるきっかけとなることを期待
- ✓ 高校や生徒・保護者の理解と協力を得ながら、通学定期の利用促進、移動の負担軽減につなげていくことが重要

テーマ3



『行動変容を支える社会づくり』

- ✓ 『マイカー通勤』、『送迎通学』を低減するためには、通勤手当拡充等に向けた慣習見直しや経済の強化、安全・安心な社会の構築が課題
- ✓ このため、沖縄経済を支える企業の就業環境に関する実態や、街中での安全・安心点検（通学路等での歩道や街路灯、通過交通の状況）を踏まえた対策（ハード整備やゾーン30プラス等）を進めていくことが重要

5. 次年度に向けた展開（検討段階）について（案）

- ✓ これまでに、高校生、大学生、就業者、妊産婦、高齢者、身体障がい者、観光客など、幅広い範囲で移動・交通に関する声を捉え、様々な課題等を整理してきたところである。
- ✓ これらを踏まえ、沖縄交通リ・デザイン実現に向け推進すべき施策の具体化等を目指すとともに、**R8年度は喫緊の交通問題に対して他関連事業の動向も見据えた実証実験の展開を目指している。**
- ✓ 実証実験の内容については、**バス通学を気軽に体験できる機会を提供し、送迎通学からバス通学への転換を促すことをねらいとして、公共交通利用促進の取組と連携した行動変容に係る実証的な取組を検討しているところ**である。

沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業の展開（検討段階）

R6年度

- ◆ 大学生等参加型WSや高校生・保護者アンケート、移動困難者ヒアリング等を実施
- ◆ **幅広い県民等の移動・交通に関する声を捉え、様々な課題を整理**
- ◆ これらを踏まえ、「**県民等が望む移動・交通の姿（暫定案）**」を作成

R7年度

- ◆ **R6年度のPIで十分に捉えられなかった、企業や勤務者及び観光客の意見や課題を整理**
- ◆ R7年度成果を取り入れた「**県民等が望む移動・交通の姿**」を作成するとともに、**次年度実証事業に向け備える。**

R8年度

- ◆ これまでの成果や、県民推進会議の取組、関連する多様な施策展開状況等を踏まえ、**公共交通利用促進の取組と連携した行動変容に係る実証的な取組を実施予定**
- ◆ 実証実験等で得られた課題を踏まえ、**社会実装に向けた展開の道筋等を明確化**



沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議、沖縄県地域公共交通協議会（市町村連携交通会議含む。）、沖縄県公共交通活性化推進協議会、各種関連事業等